

一般質問

(2～5ページ上段まで)

市議会定例会では、提出された議案を審議するほかに、一般質問として、各議員が市政全般に対して質問することができます。今回は21人29件の一般質問がありました。(他はその他の質問)

女性センターに期日前投票所を設置してはどうか

地域的なバランスを考慮し 選挙管理委員会で協議していく

加藤 雅大議員(市政) 近年、国政・地方に関わりなく選挙の低投票率が指摘されている。しかし、期日前投票は増加傾向であるため、人が集まる

民間商業施設等に期日前投票所を設置することで投票率の向上を図ってはどうか。
選挙管理委員会事務局長 民間商業施設への設置には、有権者情報を管理するサーバーと端末をつなぐ専用回線の敷設や不特定多数の人が出入りするところによる投票の秘密の保持、事前に入っているイベントとの兼ね合い等、様々な影響が考えられる。



▲期日前投票所(府中市役所) 施設の4階まで行く必要がある、駐車場の利用が20分以上は有料になるなどのデメリットがあるが、商業施設を併設していることから一定の利便性の向上に資するものと考えられるため、地域的なバランスを考慮し選挙管理委員会で協議していく。

子どもが遊び育つ環境と子どもの発達に関する認識

自由に遊び、自然と触れ合うなど様々な体験を重ねることが重要である

山上 稔議員(市フォ) 昔は近所に空き地があり、多くの子どもたちがそこで遊んでいたが、子どもを取り巻く環境は大きく変わってきている。

そのような中、市では子どもが遊び育つ環境と子どもの発達について、どのように認識しているか。
市長 幼児期から自由に遊び、公園などの整備や管理運営を

自然と触れ合うなど様々な体験を重ねることが重要であり、感覚の発達、積極的な行動力の育成など将来の青少年の自立性、社会性を育むことにつながるものと考えている。

議員 子どもが育つ環境と子どもの発達という認識に立った上で、プレーパークを含む公園などの整備や管理運営を

徘徊SOSネットワーク創設についての考えは

協力機関を拡大するとともに 情報提供の流れ等を整理し 制度化を検討していきたい

村崎 啓二議員(市フォ) 認知症施策として、国が市町村に推進している認知症ケアパスの作成状況は。また、その施策の一つである徘徊SOS

ネットワークの創設について、市の考えを聞きたい。
福祉保健部長 認知症ケアパスは医療、介護、地域が連携して認知症の方の情報を共有し、日常的なケアを進めるシステムであり、市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第6期)期間に運用できるように作成に努めていきたいと考えている。

新しい知的財産マインドに 対応できるか検証しては

関係課で連携を図っていく スタンスを維持していきたい

桑島 耕太郎議員(志高) 最近、知的財産物が流出する事件が多発しているが、知的財産権に関する、市の認識は。

市長 財産的価値を有する情報である知的財産の適切な活用が、新たな価値を創造し、社会や経済の活性化につながるものと認識している。

市はどのように考えるか。
都市整備部長 本市の公園整備は緑の基本計画2009において、量から質への転換を図ることとし、例えば公共施設等と隣接する公園を一体的に利用することで、子どもが安心して自然と触れ合い遊ぶことができる空間づくりについて研究していく。

また、徘徊高齢者の捜索に 関し、市では警察、地域包括支援センターとの情報共有により連携体制を構築している。 今後は消防署、学校、交通機関、コンビニエンスストア

知的財産権については権利の活用とともに保護も肝要となることから、法教育等で正しい知識を身に付けることも重要と考えている。

議員 近年のコンピュータ社会では誰もが著作権者に、また、利用者になり得ることから新しい知的財産マインドが重要となる。市でこのような状況に対応できるか検証するべきと考えているか。

政策総務部長 自治体として革新的な取組を推進することは時期尚早と捉えているため、国等の動向を注視し、知的財産権の適切な運用に努めつつ、関係課で連携を図り業務に取り組みたいと考えている。

母さん助けて詐欺の撲滅に 効果的な情報提供や啓発活動の 具体的な方策は

見守り活動での声掛けなど 地域全体で撲滅機運を高める 対策が必要と考えている

横田 実議員(市政) 高齢者を狙った悪質な犯罪が後を絶たず、特に「母さん助けて詐欺」は巧妙に対応策などの情

報が行き届いていないと感じるが、詐欺の撲滅への基本的なポイントは何か。
市長 母さん助けて詐欺などの特殊詐欺については、本市においても発生件数や被害総額が増加しており、看過できない卑劣な犯罪と認識している。撲滅に向けては、府中警察署、防犯協会、自治会連合会、金融機関等が連携を強化し、正しい情報提供と啓発活動の効果的に実施していくことが必要であると考えている。

議員 今後の効果的な情報提供、啓発活動について具体的な方策は

ちゅうバスの運営で 武蔵台1丁目の交通不便地域 解消に向けた施策は

路線の効果的な活用を前提に コミュニティバス検討協議会で 議論していただきたいと考えている

白井 克寿議員(市政) 平成15年から運行を開始したちゅうバスは、特に交通不便地域

に住む市民の大切な交通手段となっており、市街地や公共施設への接続など様々な面において貢献している。

また、交通不便地域の解消等の要望が寄せられている。

おいて貢献している。

多くの市民が関心をもち、期待をしていると思

議員 武蔵台1丁目に交通不便地域があると聞くと、解消に向けた施策はあるか。
生活環境部長 同地域に関しては、現在の路線を効果的に活用することを前提にコミュニティバス検討協議会で議論していただきたいと考えている。



▲ちゅうバス 多くの市民から評価や要望にどのようなものがあるか聞き

